

ヨリチ 寄地 鳳至郡諸橋郷の七海（今七見）に近い海岸をいふ。今訛つて五里地とする。能登名跡志に、『襪に寄地といふ所あり。其の昔鵜川の天神の御神跡、葉付の大根・俵藻に乗りて寄り給ふ也。今は塩漬になりてあり。』とある。

ヨリトモツカ 頼朝塚 ↓ミヨウセンジ 明泉寺。

ヨロコビグサ 悦草 二册。寛文十二年今枝直方著。前田利常及び光高に關する説話を載せ、毎條その話者の名を擧げてゐる。別に夜話と題する本もあつて、それも寛文十二年の著となつてゐるが悦草の稿本らしいが、説話も文体も異同がある。

ヨロツイチ 萬市 鳳至郡輪島の鳳至町で毎朝開かれる鮮魚・野菜の露店をいひ、四・九の日には大市が開かれた。農村漁家の主婦が手拭を頭に被り、莫塵を一枚路傍に敷き、高さ三〇〇樞・幅六〇樞・堅三〇樞許の箱に商品を入れて前に置いて座するが、降雨の日には傘傘を指し、佇立して賣つた。

ヨロツハナシシヨ 萬咄書 ↓ブドウチチ シヨワタクシヨカガミ 武道致知書私小鏡。

ヨロミ 與呂見 鳳至郡三井郷に屬する部落。

ライインガイラン 來因概覽 ↓エツトガ サンシユウシ 越登賀三州志。

ライガミネ 雷ヶ峰 鹿島郡西馬場に近く、

眉丈山の主峰である。高さ一八七米。山上天日陰比咩神社あつて、邑民の嘗祭する所なる故に、山嶺をも雨の宮といふことがある。

ライキヨウジ 來教寺 金澤下小川町に在つて天台宗に屬する。山號は毘沙門山又は卯辰山。寛永九年西養寺四代眞運の弟子正林之を創立し、毘沙門天を祀つた。

ライゲン 頼玄 眞言宗の僧。能登の人。初め紀州根來寺に至り、妙普院立誓に師事して密教の奥儀を受け、更に興福・東大諸寺に赴きて性相の學を究め、最も因明に通じた。永祿十年立誓の付囑を受けて妙普院を董し、天正十二年八月寂。年七十九。

ライゴウジ 來迎寺 羽昨郡二口に在つて、眞宗西派に屬する。

ライゴウジ 來迎寺 鳳至郡穴水の大町に在つて、眞言宗に屬する。山號は勅定山。初め青龍寺中の一つであつた。能登名跡志に、『山手に來迎寺とて密宗あり。長家代々祈願所に於て、寺領二十五石。此の寺に長谷部信連の靈像あり。今武健靈社と額あり。是自作の靈像にして奇瑞ある也。』とある。この社前に鏡の池がある。信連がそれに自体を映じて像を刻んだといひ、又寺の鎮守の稻荷明神は信連が勸請したなどいふが、凡べて俚談に過ぎぬ。寺藏木造藥師如來坐像体高八六樞は鎌倉末期の作と認められ、能登作佛藥師の内大町藥師と呼ばれたもの。又木彫勅定山の扁額は、裏書が剝落してゐるが、應仁元年丁亥七月一日の作と判せられてゐる。

ライザン 來山 ↓シミヅライザン 清水 來山。

ライシユウイモク 雷洲惟默 金澤曹洞宗

天徳院七代の住持。寶曆七年五月六日寂。

ライシヨウジ 來生寺 能美郡園に在つて、眞宗東派に屬する。

ライチヨウ 雷鳥 雷鳥の産するは鶯り白山のみに限らぬが、その白山に棲むものが古來最も有名になつたのは、禪定の徒によつて宣傳せられた爲であらう。藻塩草にらいの鳥白山にあるとし、夫木抄卷廿五に『正治二年、百首歌後鳥羽院御製。白山の松の木陰にかぐろひてやすらに住めるらしい鳥かな。』また從二位家隆卿の歌『あはれなり越の白根に住む鳥も松をたのみてよをあかすらん。』新撰六帖にも九條三位入道知家『白山の雪のうちにも蔭ふかき松をたのみて鳥やなくらん。』などもある。正徳年間前田綱紀畫工をして之を描かしめ、伊藤東涯の文を記するに及んで益名高く、前田吉徳も亦梅田兵衛に登錄して圖せしめた。但し前田治脩が梅田景直に圖せしめ、柴野栗山に記せしめたといふのは越中立案のものであつた。菊岡沾涼の諸國里人談（寛保）には、『越の白山に雷の鳥といふあり。雷をくらふ鳥といへり。』と記し、井上翼章の越前國名蹟考（文化）には、『此御山にらいたといふ靈鳥あり。其形雉子に似たり。常には不見。禪定する人の中に信心ある者、或は心正直なる人には顯れて見ゆ。』と載せる。

ライドウ 來同 石川郡中村郷に屬する部落。大正十年針道と合併して中郷と稱することにした。

ライニユウジ 來入寺 羽昨郡上棚に在つて、眞宗東派に屬する。

ライハクシンシ 來鉤神旨 二册。石黒千尋著。嘉永六年米艦の來た後國論の沸騰せる際、著者が我が神典古記録に徴し、開闢より國體を論辯して、諸外國と通商するは神意に適ふ道たることを主張した。此の書は近世諸著來舶集と姉妹篇であり、明治三十九年版刻せられてゐる。

ライフセキ 雷父石 珠洲郡本（部落名）にあるといふ。能登誌に、『此村に雷父石と云あり。雷すれば土中より浮み顯れ、雷止めば地へ沈み入るなり。里人は神戶石と呼べり。白き大石にて誠に不思議なる石なり。』と記する。

ライフンジュウ 雷粉銃 舊來の火繩筒ではなく、雷管を用ひて發火せしめる銃をいふ。文久三年三月の令に、『豊島・中島兩流筒方足輕之分、以來雷粉仕懸御筒に御改被成候。』とある。

ライマル 來丸 能美郡山上郷に屬する部落。能美名蹟誌に、この村にけいとく寺の廢址があると記する。

ラクコ 樂手 ↓キヨカネヤラクコ 清金屋樂手。

ラツプスウヨウロン 亂舞樞要論 一册。安政二年八月、加賀藩の能大夫波吉左平次愛親の著。能樂の沿革と尊嚴とその必要とを總説して、滔々數千言を重ねたものである。

ラブラースコウ らぶらーす號 慶應三年七月十一日佛艦ラブラースが所、口港に入つた。艦長カアメット、乗組二百人許。

ランガイシコウ 蘭窟詩稿 一册。蘭窟堀雅著。本書は弘化年間に成つた著者の詩稿で、五言絶句二十首、七言絶句八十二首、五言律四十二首、七言律十首を収めたものである。著者は書道を以て門戸を張つた者で、作詩の際、著者が我が神典古記録に徴し、開闢より國體を論辯して、諸外國と通商するは神意に適ふ道たることを主張した。此の書は近世諸著來舶集と姉妹篇であり、明治三十九年版刻せられてゐる。

ヨリーラン